

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 清明小学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・5・6年の学力テストから、自分の考えを表現することに課題がある。 ・作文作成において、話し言葉では考えを伝えることができるが、書いて表すことになると手が止まってしまう児童が多い。 ・カラーテストの語彙力の部分では、点数を取ることができるが、文章を書く時に活用すると難しく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い文章を書く際にも、書く時の条件(文字数・内容)を増やすことで、豊かな文章を書く練習をさせる。 ・教員が、いろいろな条件(修飾語)の入った文の紹介をする。 ・“見たこと作文”のように、目で見ただけをそのまま書かせる。文章の書き方を練習することで、文章の内容にも深まりが生まれるように指導する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を取り入れることで、意欲的に取り組む児童が多かった。 ・資料から分かったことをノートに書いたり、考えたことを発表したりすることには、大きな個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家見学や消防署見学、地域の文化財を生かした授業を取り入れ、意欲的に学習に参加できるようにする。 ・学習したことをノートに書いたり、発表したりするアウトプットする活動を意図的に計画する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリル診断シートの結果から、単位換算、図形の名称の問題の正答率が3割程度と低い。 ・6学年学力テストから「数と計算」に課題があるため、また3年生も文章題を図に表し立式することができる児童が4割程度と少ない。 ・繰り下がりのひき算を苦手とする児童が3割程度いる。 ・かけ算九九が正確に身に付いていない児童が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算について、数量関係領域で繰り返し指導し、ノートに位を揃えて書かせることで習熟させる。 ・具体物や図に表す活動を増やし、立式とのつながりの理解を図る。 ・計算の仕方を位毎に整理して、数カードなどを使って視覚的に示し、繰り下がりの操作と一致させて指導していく必要がある。少人数に分け段階に応じた個別指導を徹底する。 ・習熟度別少人数指導やパワーアップタイム、ミライシードの活用により繰り返し練習を取り入れていき基礎力をつける。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 6年の学力テストから ・「知識・技能」では、実験器具や観察器具の理解が乏しい。 ・「思考・判断・表現」では、記述式や短答式の問題形式で、無回答が多い。 ・自分で問題意識を持ち、解決しようとする自己解決能力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具の扱い方や何に使用するものか等指導する。 ・考えや理由をノートに書かせることを普通の授業から取り入れる。 ・導入の段階で、遊びを取り入れ、気付きを大切に授業を組み立てる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の2年間、歌えない時期・マスクを付けた状態で優しい声で歌うなど、発声や呼吸法を実践を通して学習できなかったため、歌唱の技能が身に付いていない児童が8割ほどいる。 ・リコーダーの正しい持ち方ができていない児童が3割ほどいる。 ・音楽を形作っている要素などへの理解が不十分な児童が8割程度いる。 ・学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。音楽の授業でも聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表すことが苦手の児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・息をたくさん吸って歌うことや、口を大きく開いて発声することなどの基礎的な発声方法を重点的に指導し、家庭学習で実践できるようにする。録音したものを振り返りながら指導する。 ・個別に繰り返し指導して身に付けさせる。リコーダーカバーを活用することで授業中での練習時間を確保し、技能の習得を図る。 ・毎回、楽譜を見る時に音符、休符、記号や用語について振り返り、音楽活動を通して音楽を形作っている要素などを理解させる。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動をより丁寧に行う。(音楽のもとを音楽に関連させて) 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具の扱いについて理解し、意欲的に活動する児童がほとんどだが、道具の扱い方が苦手の児童が1割程度いる。 ・感じたこと、想像したことや用途などを考え、かたちや色、などを生かしながらどのように表したらいいか思い付く児童が難しい児童が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の扱いでは、授業の初めに安全面の確認をし、安全な扱い方について掲示して常に確認できるようにしておく。 ・どのように表したいか考えながら活動する姿を観察し、つぶやきを捉える、作品を見とるなどして児童の状況把握を行い、適宜指導を行う。 ・ワークシートの活用をし、児童の思いやイメージを活動につなげられるようにする。 ・作品作りや鑑賞活動において、伝え合う活動を意図的・計画的に行っていく。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている児童も楽しく学習に取り組んではいませんが、技能の個人差が大きい。 ・ゲームのルールへの理解に時間がかかる。運動を振り返る活動をあまり取れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップの手立てを取ったり、ルールの工夫をしたりする。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れ、体の動かし方を身に付ける。 ・誰でも運動に熱中して取り組めるよう、易しいルール設定をしたり、ホワイトボードを活用して視覚的な支援をしたりする。めあてに対してふり返って、言葉にする機会を意図的につくる。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・ある行動に対しての登場人物への共感や悩み・苦しみについての理解や深まりが足りない。 ・展開後半で、自分自身の生活に置き換えて振り返って文章に書くことができない児童が2～3割程度いる。 ・学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。図工の授業でも、作品作りや鑑賞活動において、自分の考えを伝える力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら、どうするかなど登場人物によりそって考えさせたり、何事もメリットとデメリットがあることを対立する意見をお互いに述べ理解させたり、役割演技をさせたりして、理解を深める。 ・振り返りを書く時間を確保するとともに、書いている児童に発表させることで、書くことが苦手の児童にとってのモデルを示すようにする。 	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・発音するときに恥ずかしくて声が小さくなる児童がいる。 ・歌やゲームを取り入れているため、楽しんで取り組んでいる児童も多く見られる。 ・学力テストの結果から、思考・判断・表現に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で発言するのではなく、全員で外国語の発音をする機会を増やすことで、安心して活動に参加できるようにする。 ・身近な外国語(色、数字等)を例にあげることで外国語が日常生活に結びついていることを理解させ、楽しく意欲的に活動に参加できるようにする。 ・既習事項を総動員して、会話やスピーチができるような場面を増やす。 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なところに関心を持ち、「なぜ」「どうして」という問題意識が低い。 ・自分で、調べ解決しようとする意識が低い。 ・まとめをどのようにするか分からないことが多い。 ・もっと調べたいという意欲がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを大切にし、総合的な学習の進め方を理解させる。 ・インタビューの仕方や他の調べ方を理解させる。 ・まとめ方の例を理解させる。 ・調べたことをもとに他の所は、どうなのだろう？等比べる方法などを取り入れ、表現力を高める。 ・思考ツールを活用し、自分の考えを整理させる。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。